

紹介します

書家・デザイン書道家

のしごと

栗津紅花さん

教室やイベントで魅力伝える

書道家は、書道の作品の出品、書道教室の講師、イベントの出演など、人によってさまざまな仕事があります。栗津さんは30年近く、書道の専門家として活動しています。作品を書くときは最初、中国の書家の作品を見ながら文字を書きます。「ウォーミングアップです。土台がしっかりできていないと良い作品にはなりません」

筆運びも重要なポイントの一つです。自分に合った筆を特別に注文しています。筆は馬のしっぽの毛はかためで、ヤギの毛はやわらかいなどちがいがあそつです。神奈川県で書道教室を開いています。幼いころに指導し、引越してはなれた後、高校生になって教室にもどってきた生徒もいます。「また習いたいと思ってくれてうれしかったです」

書道のイベントに出演することもあります。音楽に合わせ大きな筆で書く「書道パフォーマンス」を披露したり、子ども向けのワークショップで教えたりします。「書道に興味を持つきっかけにつながれば」と思っています。企業や個人からの依頼を受けて「筆文字」のアイデアを考えるデザイン書道家としての仕事もあります。商品のロゴや表札などの文字を手がけます。

やりがいや苦労

観客の涙と拍手、忘れない

栗津さんは子どものときに書道をはじめからさまざまな指導者に出会い、書道の世界で生きていくことを決めたといっています。海外で書道パフォーマンスを披露したときは、「涙を流して拍手をしてくださった人がいました。感動は忘れません」。心身ともに健康でないと良いものは書けません。体を休める時間をとり、やんたどきはだれかに話すようにしています。栗津さんには2人の子もがいて、2人とも書道家です。「力を合わせて書道の魅力を世界に伝えていくのが夢です」

主な仕事

- 1 作品を手がける
- 2 書道の指導
- 3 イベントに出演
- 4 商品のロゴを考える

イラスト・たなかさゆり



書に向かう栗津紅花さん＝神奈川県横浜市、近藤理恵撮影

あゆみ

3歳のときに書道を始めました。小学5年生のとき、美術展で1枚の書に出会いました。「書が人の心をこんなに動かすとはなんてすばらしいことだろう。自分も人の心を動かす作品が書きたい」と思いました。学校で好きな教科は、算数でした。書道に進むか、数学の先生を目指すかまよった時期もありました。

書道の世界で生きていくことを決めましたが、ちがう仕事も体験してみたいと思いました。そのため、書道に専念する前に、大学卒業後、銀行に就職して数年勤めました。

- 愛知県生まれ**
- 小学校時代**
3歳で始めた書道が続けた。学校の勉強は好きだった。「疑問を一つひとつ解決できるのが楽しかった」
- 中学・高校時代**
中学校ではテニス部と美術部、高校ではバンド部に入っていた。絵をかくのも好きだった
- 大学時代**
三重県の大学に進学。家政科で、栄養について学んだ
- 社会人**
大学卒業後、銀行に就職。その後、書道に専念する。外国人に書道を広めるため、国際交流のイベントに出演したこともある

クローズアップ



筆とすずり。筆は自分に合った筆を選ぶことが大切といえます

◆ごめんなさい 7日付の「ダンサーのしごと」で、TAKUMIさんの生まれた年が「2001年」、高校進学年の年が「2017年」とあるのは、それぞれ「2000年」と「2016年」のまちがいでした。お詫びして訂正します。